

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873101166		
法人名	有限会社 シニアライフ		
事業所名	小川ケアセンターみどりの風	ユニット名	
所在地	〒311-3424 茨城県小美玉市幡谷204-60		
自己評価作成日	平成24年6月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873101166-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年8月20日	評価確定日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模施設で通所介護併設という利点を活かし、外部との交流を重視し、開設者の地元のため近隣の子ども会との交流企画を実施している。 自然に囲まれたとても静かな住宅街にある為、外観も施設ではなく、住宅地に溶け込むように配慮している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は静かな住宅街の中にあり、木々に囲まれた和風の落ち着いた佇まいの建物である。 地元出身の管理者が特別養護老人ホームでの経験を活かし、利用者一人ひとりに寄り添った支援をしながら地元で恩返しをしたいとの思いから開設しており、「その人らしさを大切に、当たり前の生活を送り、家族のような温かさで地域に根差した、安心した生活作りをお手伝いする」との地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成して支援に努めている。 管理者の人脈を活かし、2ヶ月に一度美容師の来訪による支援を得たり、定期的に生き生き体操やフラダンス、民謡などのボランティアが訪れているほか、子ども会と共催で納涼祭を実施したり、利用者が子ども会や幼稚園の行事に招かれるなど、地域住民と日常的に交流している。 利用者は居間からウッドデッキに出てお茶を楽しんだり、外気浴をして季節を楽しんでいる。 玄関や廊下、居間の壁の所々に淡い色調の絵がさりげなく飾られ、利用者は落ち着いた雰囲気の中、居間のソファでおしゃべりをしたりうたた寝をして穏やかに過ごしている。 管理者は市担当者が参加する「地域密着型介護サービス協議会」の役員や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、市の福祉に貢献している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に、当たり前前の生活を送り家族のような温かさで安心した生活をお手伝いをする	開設当初から「その人らしさを大切に、当たり前前の生活を送り、家族のような温かさで地域に根差した、安心した生活作りをお手伝いする」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関と事務室に掲示するとともに、管理者と職員は朝礼時に唱和して共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者・計画作成・職員が地域住民であるため、日常的付き合いがある。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わすとともに、地域の清掃活動に参加するほか、利用者が子ども会や幼稚園の行事に招かれたり、子ども会と共催で納涼祭を実施するなど、近隣住民と日常的に交流している。 生き生き体操やフラダンス、民謡、ギター演奏などのボランティアが定期的に来訪するほか、ボランティアの美容師が2ヶ月に1回来訪し、無料奉仕をしてくれている。 ホームヘルパー2級養成講座の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の講習会にメンバーとして参加		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催	運営推進会議は市職員や民生委員、地域住民の代表で2ヶ月に1回開催しているが、家族等の参加を得るまでには至っていない。 会議では事業所の状況や行事、外部評価への取り組み状況などを報告するとともに、市職員から市行政の情報を得ているほか、民生委員や地域住民の代表からは近隣の独り暮らしの高齢者の実情について話を聞いたり、地域密着型サービスや看取りについての説明を求められるなど、双方向的な会議となっており、出た意見等をサービスの質の向上に活かせるように努めている。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組みの内容や具体的な改善課題を話し合うとともに、家族等の理解を得たり、意見や要望を表せる貴重な機会でもあるので、家族等の参加が得られるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員参加・地域ケアシステム参加	市担当者が運営推進会議に出席している。管理者が市に頻繁に出向いて事業所の状況を伝えるとともに情報交換をするなど、連絡を密に取って協力関係を築いている。管理者は市担当者が参加する「地域密着型介護サービス協議会」の役員や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、市の福祉に貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	解説当初より施錠なし	玄関や居間続きのデッキへの入口は施錠せずいつでも自由に出入りができ、利用者がデッキでお茶を飲むなど、拘束感の無い生活を楽しめるよう身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、全職員が身体拘束の内容と弊害を正しく理解するまでには至っていない。	身体拘束の内容と弊害を正しく理解するために、定期的に内部研修を実施することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政主催研修会に参加		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象利用者がいないが今後必要があれば勉強会を実施		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明同意の上締結している。法改正の際は契約書別紙にて随時締結。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて実施している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 家族等との電話や面会時に話を聴き、意見や要望を表わせる機会としているほか、毎月の請求書送付時に利用者一人ひとりの現状を報告したり写真を同封し、家族等の意見等が出易くなるよう配慮している。 出た意見等は「情報ノート」に記録し、管理者と職員で話し合っ運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて実施している	管理者は月1回のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、日頃から介護の現場で悩みを聞くなど、職員とのコミュニケーションを図り、意見等を気軽に出せるような関係づくりに努めている。 「ケース記録は関わった全職員で記入する」や「職員の名前入りの写真を玄関や食堂の壁に掲示する」など、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表・管理者が現場で勤務し随時問題や勤務状態の把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が茨城県介護福祉事業共同組合理事・茨城県地域密着型介護サービス協議会会員		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取り調査をしている。ご本人との面会も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時々で状況に合わせて対応出来てはいるが、どうしても介護依存してしまう傾向がある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会・外出・外泊を自由にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記の実施は有るが、その場所に行く事で本人の混乱・家庭の知られたくない部分に該当する事もあるが、要望により支援出来る体制である。	利用者の親戚や友人、併設の通所介護事業所利用者の来訪がある。 職員は利用者が友人へ手紙を出せるよう代筆をして馴染みの人との関係が途切れないように支援している。 利用者が家族等の協力を得ながら正月や盆の外泊、墓参り、法事などに参加ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の過ごし方が確立されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談が有れば応じる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的に過ごし方は自由で、基本的なスケジュールで日中の個人のペースを作ってもらおう。	職員はフェイスシートにより利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、利用者の意向にそった支援ができるように努めている。 思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、支援の際の話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り調査にて		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を毎日記入し状況把握。出来ることは実践して頂く。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は御家族の同意・意見を聞き作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握し、計画作成担当者を中心に短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月と設定期間を定め、職員と話し合っ作成している。 作成した介護計画は家族等に説明して同意書を得るとともに、3ヶ月毎にモニタリングを行い、支援経過を見ながら必要な場合には現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の為、臨機応変に対応可能		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員・ボランティアの訪問は定期的に行われている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に定期的を受診していた病院には継続して受診してもらっている。家族・本人の意向があれば変更可能	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としており、家族等と協力して担当医や専門医への受診に付き添っている。 受診結果を記録するとともに、家族等に代わって職員が付き添った場合には電話で結果を家族等に報告している。 週1回協力医療機関の医師による訪問診療があると同時に、協力医療機関の医師に24時間連絡が可能な体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置無いが、週に一度ドクターが往診がある。24時間ドクターへの連絡が可能であり、状態によっては、往診日以外でも往診して頂ける。デイ看護士へ相談も可能。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活サマリーの提供・早期退院の相談実施		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	講師を招いて、家族・介護職員で終末期・見取りの講義を受講した。	重度化した場合や終末期の対応について事業所の指針を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。「看取るための手引書」を作成するとともに、外部から講師を招いて職員と家族等で終末期や看取りの勉強会を実施している。利用者が重度化した場合には段階毎に家族等の意向を踏まえながら医師、職員が連携を図って対応ができるよう取り組んでいる。これまでに看取りを3度経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救急救命の講習を実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練実施	年2回消防署立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を実施するとともに、定期的な設備点検を行っている。訓練に近隣住民の参加を得られるよう自治会と協議を行っているが、参加を得るまでには至っていない。訓練の結果は記録しているが、課題や反省点を話し合っただけで記録するまでには至っていない。緊急連絡網を事務室に掲示している。災害の発生に備えて食糧や飲料水、おむつなどを備蓄している。	運営推進会議などを通してこれからも避難訓練への参加を呼びかけ、地域住民の参加を得るとともに、事業所の災害時対策に理解を得ながら、協力体制を構築することが望まれる。訓練の結果や課題、反省点等を話し合い、記録して次回に活かせるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を実施し対応法を勉強した。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 写真の掲示など個人情報の使用に関しては、契約時に家族等から「個人情報提供同意書」により承諾を得るとともに、個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉掛けはしているが、認知症のレベルにより困難な場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に過ごし方は自由で、基本的なスケジュールで日中の個人のペースを作ってもらっているが、こちら側の都合による場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の定期的な訪問により、個人の好きな髪型にしてもらう。本人希望であれば馴染みの理美容室の利用をしてもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的に行う利用者にはしてもらうが、本人のストレスとなる事が多い為強要はしていない。	職員は利用者と会話をしながら楽しく食事ができるよう支援し、利用者は能力に応じてお茶を入れたり、テーブル拭きや下膳、食器拭きなどの役割を担っている。 宅配業者による献立や食材となっており、副菜は併設の通所介護事業所で作っているが、行事食に流しそうめんを取り入れたり、出前や外食で食事が変化に富んだものになるよう工夫している。 利用者は職員と一緒にたこ焼きを手作りしたり、喫茶店へ出かけてケーキやお茶を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを実施し介助が必要な方には見守り一部介助にて実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時トイレ誘導・声掛け実施し排泄チェック表を作成。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら声かけ誘導し、可能な限りトイレで排泄ができるように支援している。 できるだけおむつの使用を減らせるよう取り組むとともに、夜間は居室にポータブルトイレを置いて排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を取り入れているが、ひどい便秘などドクターとの相談うえ下剤をかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中の中入浴となっているが、個々に十分な入浴時間・安全性確保をする為に時間を決めている。時間・タイミングをバラバラにすると、その確保が難しく、入浴しない利用者も出て来るため清潔保持も難しい。	入浴は基本的に一日おきで午前中としているが、利用者の希望にそって入浴日や時間を変えて入浴ができるように取り組むとともに、体調によりシャワー浴や足浴などで対応している。 希望により同性介助の対応をしているほか、入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけを工夫したり、入浴する日や順番を変えて無理のないよう促し、利用者一人ひとりのペースで入浴ができるように努めている。 菖蒲湯や柚子湯等を取り入れ、季節を感じながら気持ち良く入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息・昼寝は個々の自由、昼夜逆転しない程度での管理はしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて確認・薬局との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のストレスとらないようにやっけて頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調によるが散歩などの気分転換・ドライブを実施しているが、本人・家族の希望があれば支援。	天気の良い日には利用者の希望や体調にそって散歩に出かけている。 行事担当の職員を中心に外出計画を立て、花見や紅葉狩り、ドライブに出かけているほか、利用者の希望により外食に出かけたり、喫茶店でケーキやお茶を楽しめるよう取り組んでいる。 利用者は居間から出られるウッドデッキで季節を感じながら外気浴をしたり、お茶を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルになる為、使う状況になる以外は金庫にて管理		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ支援		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計段階で空調・風の流れ・光・周囲の景色を配慮し設計。	居間は天井が高いため明るく広々としており、自然を生かした木々に囲まれてガラス戸越しに和らいだ光が差し込んでいる。 食堂の壁には時計やカレンダー、その日の予定が掛けられているほか、職員の写真を名前入りで掲示し、利用者が職員の顔と名前を確認できるよう工夫している。 利用者は居間続きのウッドデッキで外気浴をしたり、お茶を楽しむとともに、居間からバリアフリーになっている畳の部屋で洗濯物を畳んだりして居心地よく過ごしている。 玄関や廊下、居間の壁の所々に淡い色調の絵をさりげなく飾り、落ち着いた雰囲気の中で利用者が居間のソファでおしゃべりやうたた寝をして穏やかに過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース（和室）ホールには食卓以外にソファの設置		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込み自由。各家庭により居室を作って頂き、各居室の雰囲気を変えるようにしている。	利用者は居室にベッドやタンス、扇風機など使い慣れた物品を持ち込むとともに、壁に時計やカレンダーのほか塗り絵や習字など利用者の作品や家族の写真、花を飾り、寛いで過ごせるよう工夫している。 日用品は備え付けのクローゼットに収納し、利用者が部屋を広く使い易いよう配慮している。 居室の入口には、一人ひとりが分かり易く工夫した表札を掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄な掲示物は無く、自分たちで認識し行動できるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小川ケアセンターみどりの風

作成日 平成 24 年 11 月 26 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	推進会議の家族出席率	多くの家族出席	曜日の設定や出席の働きかけを行っていく	随時
2	5	身体拘束	身体拘束を職員が理解する	身体拘束の研修していく	半年
3	13	災害時の近隣との連携	近隣住民との防災訓練	自治会との連絡協議を行っていく	随時
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。